

香川大学女性研究者研究交流会in幸町

日時：平成25年3月27日（水）14：00～17：20

テーマ：「アカデミズムにおけるジェンダーの平等～スウェーデンと日本の女性研究者の対話～」

講師：鮎 恵子先生（スウェーデン王国ヨーテボリ大学医学細胞生物学）場所：教育学部北3号館1階313講義室

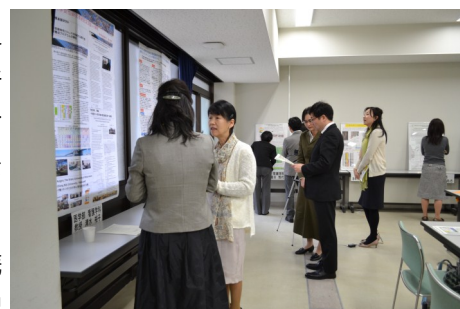
参加者：25人

香川大学女性研究者研究交流会と題して、第1部に研究補助者を利用した女性研究者による研究交流リレー、第2部にはスウェーデンで活躍される鮎恵子教授をお迎えしてスウェーデンでの研究者の環境などについての問題提起を伺いました。

研究交流リレーでは、研究補助者を利用した研究者による研究発表をしました。農学部野村先生はマメ科の研究、教育学部高橋先生の研究補助者舩城さんは光電子分光法の研究、看護学科松井先生は在宅ケア専門職のチームアプローチの研究、看護学科清水先生は模擬患者役割特性ストレスを軽減する医学・看護学協働要請プログラムの開発等、看護学科大西先生は子供の遠見視力低下防止のための保険モデルの構築等、看護学科越智先生はアルコール依存症の家族のターニングポイントの研究、看護学科當目先生はシミュレータ教材を使った術後管理技術の研究、看護学科金正先生は進行がん患者の安楽な移動動作を獲得するプロセスと安楽の表出、インターナショナルオフィス正樂先生はアジア諸国における「学校を基盤とする経営」に関する比較研究を発表されました。他学部・他分野の交流で新たな発見があったことを期待します。

鮎先生の問題提起ではスウェーデンの男女平等の考えが就労環境でどのように実践されているかのお話がありました。大臣は女性が過半数を占め、歴史的にも女性の独立が認められたのが1858年、給与も1947年には男女の差はなくなったスウェーデンでも未だに男女の差があると考えられています。研究の場でも向学心のある学生にはチャンスを与えるべくポジションの確保や学費の免除などで優遇されます。就労環境も個人の経済で生活しているので男女や既婚・未婚の差もありません。保育施設の充実も国が保証しています。スウェーデンの女性の80%が定年退職まで働くので、扶養家族が少なくなり、受けた教育を社会に還元することが、子どものころから当たり前に教育されています。男女の差なく経済力を持つことが自己責任であるとされ、社会意識の発達など個人の成長を促すことにつながるので、お互いに協力を惜しまないのだそうです。鮎先生のお話のあと、スウェーデン留学が後のキャリアに繋がった、ロシュ・ダイアグノスティックスの林さんや、現在の留学中の医学部矢倉富子さん、今後派遣予定の滝川祐子さんのご紹介もありました。

「女性だから」と諦める社会でなく、「女性だから」できる社会の実現を香川大学から発信したいと思いました。



香川大学女性研究者 研究交流リレー



農学部 野村美加 准教授



研究補助者 舩城央 さん



医学部 松井妙子 教授



医学部 清水裕子 教授



医学部 大西美智恵 教授



医学部 越智百枝 准教授



医学部 當目雅代 教授



医学部 金正貴美 講師



インターナショナルオフィス 正樂藍講師

